

# CSR Report 2014

次の世代の子どもたちのために

## Topic①

### 社長×若手社員座談会

三菱製紙販売の未来に向けて、私たちが考えること

## Topic②

### 環境事業

FSC®森林認証製品普及を使命として

## Topic③

### Safety&Health事業

将来に希望を持つ商材・サービスを探して

## Topic④

### 支店活動紹介

札幌・名古屋・九州



FSC®C011851

# 三菱製紙販売の未来に向けて、 私たちが考えること

三菱製紙販売が現在置かれている状況をどう捉えるか、中長期的な視野から目ざすべき理想の姿とは何か、その理想に向けてどのように歩んでいくべきか……。経営者と現場が想いをひとつにして、より良い未来づくりに取り組んでいけるよう、社長・中瀬一夫とさまざまな職種の若手従業員6名が集まり、ワークショップ形式による座談会を開催しました。

## 三菱製紙販売を取り巻く環境とは

三菱製紙販売の現状を整理するため、まずは参加者それぞれが考える当社の強みと弱みを共有しました。強みとしては「三菱グループのネットワーク」「ユーザーに三菱ファンが多い」などグループ力やブランド力に着目した意見が相次ぎました。一方で、「平均勤続年数が長い」「団結力」「結婚・出産後も安心して働ける」など職場環境や風土について触れる声も聞かれました。

弱みとしては「従業員の商品知識」や「仕入れソース」についての課題や「提案型営業が弱い」など、従来の事業・体制の「枠」にとらわれていることへの指摘が多く挙がりました。また、「若手社員が少ない」など人材の偏りを懸念する意見もでした。社長からは「全事業における洋紙販売比率の高さ」が指摘され、9割以上が紙製品という商材構成の偏りが今後は課題になってくることを再認識しました。

続いて話し合ったのが、当社を取り巻くチャンスとリスクについてです。チャンスとしては「環境配慮型製品へのニーズの高まり」「健康・安全を重視する社会」などが挙げられ、当社がすでに新商材を展開する環境事業やSafety&Health事業が、社会の中で重要度を増す分野であることに注目が集まりました。

その反面、リスクとしては「電子化による紙離れ」「円安による原料

営業開発部営業開発第1チーム

**清家 友理子**

直需四部直需第8チーム

**新聞 敬将**

大阪支店 卸商部卸商第2チーム

**高橋 伸幸**

直需四部直需第8チーム

**吉原 明子**

名古屋支店 営業第3チーム

**井村 武志**

出版用紙部出版用紙第1チーム

**齋藤 輝政**



高」など紙製品をめぐる環境の厳しさに参加者たちの意識が向かいま  
した。その他、「少子高齢化」「地球温暖化」「国内産業の海外流出」と  
いった社会課題を捉えた意見もあり、これらが直接的・間接的に当社の  
事業にも影響を及ぼすことを確認しました。

より良い未来を目ざし、今、取り組むべきこと

後半では、2020年を目標年に「こういう企業でありたい」という  
理想像を話し合い、そこにたどり着くまでの課題や手法を考えるバック  
キャストイング(未来思考法)により対話を深めました。

2020年の理想の三菱製紙販売の姿としては「さまざまな商材を  
扱える総合商社」「三菱製紙品以外の紙製品の販売増加」「近隣諸国へ  
の進出」など、事業領域の拡大への意見が多く挙がりました。また、「若  
手が活躍する会社」「女性リーダーの誕生」「全員参加経営」など組織の  
あり方にも議論は及びました。

理想像を実現するための課題についても話し合わせ、「受注・販売に  
向けてのスピード力に欠ける」「ハングリー精神が不十分」「パートナー  
企業が少ない」など多様な視点からの意見が集まりました。「需要創造  
力の不足」の声に、社長から「市場を通してお客様のニーズを読み取  
り、商品開発にブレークスルーを起こしていく革新性が必要」との声が  
挙がり、参加者たちの大きく頷く姿が見られました。

座談会の締めくくりとして、課題を解決し理想の未来を目ざすため  
に、今できることを話し合いました。「マーケティング力の向上」を求め  
る声が続くと、連動して「メーカーや得意先との関係強化が不可欠」  
「間伐材グッズなどの新製品がお客様との接点を増やすことに役立つ」  
などの意見が続きました。その他、「採用の多角化」や「従業員のモチ  
ベーションを高めるための能力主義の導入」など人材活用に触れる発  
言もありました。「CSV(共通価値の創造)につながる商材の開発」  
との声には賛同が集まり、事業を通してお客様や社会が抱える課題解  
決に貢献していくことが、当社の成長の原動力にもなるという認識を  
深めました。

座談会 社長 × 若手社員

# 中瀬 一夫

取締役社長





本店 営業開発部  
営業開発第1チーム

**清家 友理子**

Yuriko  
Seike

国内では今後いっそうの高齢化が進み、中長期的には当社でも介護休暇の取得者の増加などが予想されます。ITが発達した今、在宅勤務制度の導入などで柔軟な働き方ができる職場づくりを進めれば、多様な従業員にとつての働きやすさが実現するよう思っています。

会社の将来を今回のように真剣にしっかりと考えたのは初めてで、大変勉強になりました。従業員全員が経営に携わるような高い意識を持ちながら、今の自分が何をすべきかを日々考えて実践していくことが大切なのだとあらためて感じました。



本店 直需四部  
直需第8チーム

**新聞 敬将**

Takamasa  
Shinma

価値観の多様化が進み、環境や品質・安全性への意識が高まる中、高付加価値製品へのニーズはますます増加しています。現在当社では、国内森林保全を目的とした間伐材グッズをお客様に提案していますが、これはCSVにつながる製品の先駆けと考えられます。

社有林を持ちながらも有効活用ができていないなどお客様が抱える課題に対してソリューションを提供することで、当社としてもお客様との接点を増やしWIN-WINの関係を築くことができそうです。このような商材開発を今後いっそう強化していくべきだと考えます。



大阪支店 卸商部  
卸商第2チーム

**高橋 伸幸**

Nobuyuki  
Takahashi

電子化などを背景に紙離れが進んでおり、紙の代理店として「量を追う事業」から、「収益重視の事業」への転換が不可欠になっていると感じます。三菱製紙品だけにとどまらずそれ以外の紙製品の拡大、さらには紙以外の新たな市場へと事業を拡大し、さまざまな商材を扱う総

合商社としての飛躍を目指さなければなりません。来年度には北越紀州販売(株)との統合により、商材数の増加という大きなチャンスを得ます。お客様や社会が本場に必要とするものを察知し、展開する力を私たち一人ひとりが磨いていかなければならないのだと考えます。



名古屋支店  
営業第3チーム

**井村 武志**

Takeshi  
Imura

日本国内の紙需要は確かに減少傾向にあります。一方、海外に目を向ければ、新興国では紙へのニーズはいろいろな形で見出されます。他業種との協業も視野に入れながら、紙製品の販売で築いてきた当社の強みを活かして、新しいビジネスモデルを構築していくこと

が重要なのでしょうか。モノやサービスの販売という機能を担う当社であればこそ、人材は財産です。現在は、偏った人材構成の傾向にあります。今後は若手を含め多様な人材を採用していくことも欠かせないと思います。



本店 出版用紙部  
出版用紙第1チーム

**齋藤 輝政**

Terumasa  
Saito

目前の仕事に精いっぱい毎日を送っていますが、今回の座談会では長期的視点を持つことの大切さを実感しました。来年度からは北越紀州販売(株)との統合による新体制がスタートしますが、最適な形で人材の融合を果たし、2社のシナジーを活かして、お客様との信

頼関係をさらに強固なものにしていくことが重要だと思います。マーケティング力を磨き、市場ニーズを汲み取った多様な商材展開が今後ますます欠かせません。私自身も、洋紙販売はもちろん、業界・業種を超えた商材を提案できる営業として成長していきたいと思っています。



本店 直需四部  
直需第8チーム

**吉原 明子**

Akiko  
Yoshihara

®FSC認証について、次世代を担う子どもたちにも身近なものに感じてほしいと願っています。授業の一環でFSCの仕組みを学ぶことや、教科書や文具に認証紙や認証材が使われるようになるなど、教育現場を通じた普及を進められるとよいのではないのでしょうか。

また、女性ももっと活躍できる職場となるよう、研修・教育制度の充実が求められていると感じます。リーダーシップを発揮し、マネジメントに携わる女性が社内が増えていくことで、その感性が事業に反映され、業績向上につながれば素晴らしいと思います。



取締役社長

## 中瀬 一夫

Kazuo Nakase

三菱製紙販売を取り巻く環境は変化しており、今私たちは大きな変革期を迎えています。紙製品の販売が当社の重要な柱であることには変わりがなく、今後もお客様に満足していただけるように堅実に取り組んでいかなければなりません。また、当社が持続可能な社会づくりに貢献するには、加速化している需要構造の変化に対応する必要があります。従来品より環境負荷を低減し、コストダウンできるものとして、例えばオフセット印刷に代わる新たな商業印刷方式に対応した産業用インクジェット用紙の提案や、食品・飲料の包装分野における用途を開拓することなども進めていきます。

一方で、紙製品以外の商材を積極的に伸ばしていくことも不可欠です。現在、環境事業や Safety & Health 事業を第二、第三の柱として育てていきますが、グローバル競争力を高めるためにも、これらに主眼を置いた付加価値の高い商材構成を築いていくことは非常に重要です。

新分野での確実な成長を果たすためには、メーカーニーズと顧客ニーズを結び代理店としての機能をもっと高めていかな

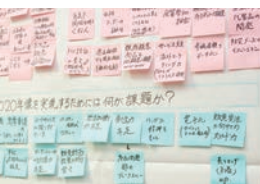
## 社会の要請に応え、新たな成長ステージへ

ければなりません。「今何が求められているか」という市場を見抜く目を私たちが自身が磨き、広域にわたる商品知識を深めていく必要があります。社会課題を解決するような革新的な製品もそうしたところからこそ生まれてきます。

2015年4月に迎える北越紀州販売(株)との経営統合は次の成長への大きな契機となります。お互いの強みを活かしながら、大幅な規模拡大を遂げることで、業界における私たちの存在感は高まります。基盤強化による収益向上は、さまざまなステークホルダーと明るい未来を生み出していく土台となり、企業が果たすべき責任として極めて重要なものです。

私がいつも目ざしたいと考えるのは、従業員がやりがいを持って働き、自己実現できる会社です。そこには「自分が携わる仕事が社会に貢献している」という実感が欠かせないでしょう。当社が環境や健康、安心・安全をキーワードにした事業に注力するのは、それ自体がCSVとして従業員の充実感をつくり、共創社会への道につながると思えるからです。

今回の座談会では当社の将来を考える従業員たちの真摯な声を聞き、大変心強く感じました。当社がどのように進化を遂げるかは、現在当社で働く一人ひとりにかかっています。より良い三菱製紙販売を目指し、共に力を尽くしていきましょう。





# 責任ある森づくりを支える

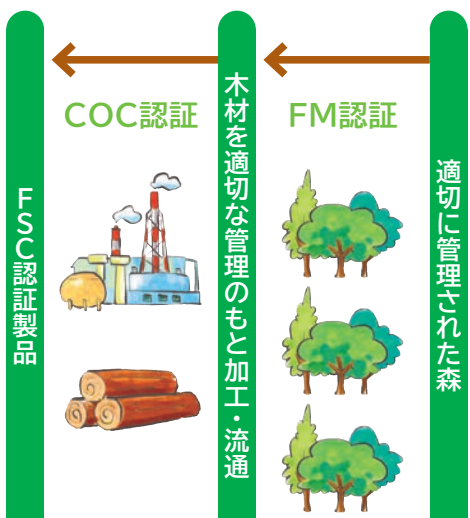
## 「FSC認証制度」とは？

### 世界に広がる FSC認証のしくみ

健全な森を守り育てる目的から、適切に管理された森林と、そこから生産された木材の加工・流通プロセスを認証する「森林認証制度」があります。それを運営する国際機関の一つがFSC (Forest Stewardship Council) / 森林管理協議会です。FSC認証は、環境に配慮し、地域社会に便益をもたらす、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられます。

FSC認証は大きく二種類に分かれます。適切に管理された森を認証する「FM認証」は、あらゆる管理者・所有者の森を対象にしたもので、日本では森林組合や地方自治体、NPO、社有林を持つ企業などが取得しています。また、その木材を加工・流通段階において他の木材と混ぜることなく管理した事業者を評価するのが「COC認証」です。2014年10月現在、国内では製材所や木材の卸売業者、製紙

会社、印刷会社、工務店などの事業者がこの認証を受けています。国際的にも信頼性が高い制度であり、FM認証は79カ国1296カ所、COC認証は112カ国2万8303件へと普及しています。



このマークが証!



※ FSCインターナショナル「Facts and Figures October 2014」より

### FSC認証製品を通して 森林保全に貢献

FSC認証とCOC認証をつなぐサプライチェーンでつくられた製品は、FSCマークを表示することができます。環境意識が高まる中、FSC認証製品を選ぶ企業や消費者は世界中で増えています。環境に配慮した運営で注目された2012年のロンドンオリンピックでは、会場建設にはすべて森林認証材が使用され、そのうち67%がFSC認証材となっています。国内に目を向けても、FSCマークを持つ製品は建材や家具をはじめ、文具、おもちゃ、商品パッケージなど身近なところに広がります。また、各種印刷物でもFSC森林認証紙の利用が少しずつ進んでいます。

木材は人類社会の資源として極めて重要であり、私たちは今後も長い将来にわたって森林から得た木材の利用を続けていくこととなります。FSC認証製品の普及は、より多くの人を世界の森林保全活動に巻き込む仕組みとして大きな意義を持っています。



FSCジャパンより贈られた丸太の輪切りのFSCマークと、WWFジャパン法人会員楯。楯はFM認証材、会員証はFSC森林認証紙を使用。



私たちの活動

# 次世代に生物多様性と資源を残すため 環境事業で最も力を入れているFSC

## FSCの認知度アップのため 応援プロジェクトを始動

FSC森林認証製品は生物多様性を守り、計画的に生産、管理される環境配慮型の商品であり、FSCのマークが入った商品を選んでいただくことで、消費者が森林保全を間接的に応援することができます。問題はFSCの普及が遅れていることで、私たちとしてはまず認知度を高めたい。そのため、昨年10月から『FSC応援プロジェクト』というサイトとフェイスブックを始めました。11月1日現在「いいね！」は6000を超えましたが、今年度中に1万いいね！を集めるのが目標です。このフェイスブックにはFSC製品を扱う企業をご紹介します

「FSCマーク製品ものがたり」というカテゴリがあります。これまでに(株)トンボ鉛筆(株)ローソン、メリタジャパン(株)、花王(株)、森永乳業(株)(株)日之出



版(株)NOLTYプランナーズの各社さんにご登場いただき大変好評で、さらに増やそうとFSCを採用されている企業にお声をかけています。また、一般の方による「発見！FSCマーク」というカテゴリもあり、ご紹介企業から一般の方々まで楽しんで見ていただけると幸いです。

FSC森林認証紙の認知度や販売量が向上しても、それをプロジェクトの成果と直接結びつけることは難しいですが、三菱製紙グループとしてFSC森林認証紙は特色であり、もつと伸ばします。三菱製紙販売としてはワンストップサービスとしてお客様のニーズに応えるために三菱製紙以外の製品も扱い、FSC森林認証製品を増やします。FSC森林認証製品を増やすことは環境に良い影響を与えるという信念と目的を持っています。

※ 檜原村とは…  
島を除くと東京都で唯一の村で、東京都の西に位置し、部を神奈川県と山梨県に接しています。山に囲まれており、地域の9割以上が森林のため林業や製材業が盛んですが、近年は豊かな自然を楽しむに訪れる人が増えています。

## FSCを広める イベントを開催！

### 「すみだ水族館」とコラボ

東京スカイツリータウンにあるすみだ水族館さんとコラボしたワークショップを春休みに開催。「森が元気にならないと水もきれいにならない」と、すみだ水族館さんにご賛同いただき、実現しました。お子様がポストカードに塗り絵をしている傍らで、FSC応援プロジェクトを紹介していただきました。



### ※ 檜原村FSCの森でキャンプ！

東京都檜原村でFSCの森をお持ちの田中林業(株)さんにご協力いただき、8月末に社員とその家族、友人で1泊2日のキャンプを実施。FSCの森が守る清らかな流れでの川遊び、木の感触と香り高さを実感したツリークライミングなど、存分に楽しみ森のめぐみを全身で受け止めました。



# 国内森林保全

## 日本の森林再生のために 今私たちに求められること

### 人工林に欠かせない 間伐などの手入れ

日本は世界有数の森林国であり、国土の3分の2となる約2500万ヘクタールを森林が占めています。自然が生み出した天然林が豊かな一方で、人の手によりつくられた人工林も全体の4割に上ります。人工林の多くは、戦後急速に高まった木材需要に因應するため、成長が早く加工しやすいスギやヒノキが植林されて誕生しました。しかし、より安価な外国産の木材が輸入されるようになると、それらの人工林は放置されることになりました。林業の衰退とともに山村地域の活力も低下し、担い手不足からさらに森林の荒廃が進むという負の連鎖を生み出してきました。

人工林は間隔を空けずに苗を植え、のちに適切に間伐し、下刈りや枝打ちを行うのが通常です。こうした手入れなしでは樹木は十分な栄養を得られず、細くて弱い枝が重なり合った暗い森が生まれます。植物が十分に育たない

森は土砂崩れや河川の氾濫などの原因にもなるため、間伐などの保全作業は人工林には決して欠かせないものなのです。



【After】

木々に適度な間隔が生まれ、成長しやすく健全な森に

【Before】

木々が密集している

適切に間伐すると…

### 間伐材・国産材の活用が 日本の森林を守る

間伐により生まれた木材を有効利用することも非常に大切です。近年では、間伐材は合板・集成材として加工され建材に用いられるほか、家具や木工品、ノベルティグッズ、さまざまな用途の紙などとして徐々に製品化が進んでいます。間伐材製品が普及することで、これまで搬出に費用がかかることから山に放置されてきた間伐材の価値が見直され、間伐作業の促進にもつながってきます。

一方で、そもそも日本では国産材の使用量が少ないという課題を抱えています。人工林は植林されてから45年程度で収穫適齢期を迎えますが、輸入材に頼っているため、成熟しながら利用されない森が増え続け、若齢の森林が圧倒的に少ない状況です。将来の世代に森林資源を残していくためには、成長した木を伐採して積極的に活用し、新たに植林して国産材の資源循環をつくっていくこともまた不可欠です。成長が著しくCO<sub>2</sub>吸収量が大きい若い木を植えることは、森林の温暖化防止作用をも高めてくれるので、今後、国産材の積極的な活用が望まれます。





私たちの活動

# 間伐材の有効活用で 森林保全に貢献

## 間伐材を使った ノベルティグッズの販売拡大

環境事業としての第2の柱である国内森林保全については、いくつかの取り組み事例が進行しています。国産間伐材によるノベルティグッズの製作を行うフロンティアジャパン(株)さんとの協働関係はさらに強固なものとなり、間伐材を使ったノベルティグッズの販売は伸びています。新しいカタログには新製品も多数掲載しています。

「FSC応援プロジェクト」の二環で檜原村にあるFSCの森で夏キャンプを実施しましたが、ここでの間伐材も利用する道はないかと模索しています。



※木質バイオマスには製材工場等残材や建設発生木材のように9割以上利用されているものがある一方、林地に放置されている間伐材はほとんど利用されていません。未利用間伐材等が木質バイオマス燃料として価値を持つことができれば林業経営にも寄与し、森林整備の推進にもつながると期待されています。当社では、間伐材をペレットにしてストーブの燃料にする木質バイオマスに取り組みんでいます。

## 木質バイオマスへの 取り組みも企画中



間伐材を薄くスライスし貼り合わせて加工しています。本を開くたびに癒されます。



カレンダー本体はオリジナルデザインに変更可能で、土台部分には名入れもできます。



スタイリッシュなデザイン形状でボードから取りやすいと好評のマグネットバーです。



最新レーザー機器で繊細なデザインにも対応可能です。表面にレーザー彫刻を入れることもできます。

す。ペレットストーブはヨーロッパなどでは既に普及していて、日本国内でも工場の産業用や公共施設のバイオマスボイラーに国の助成金が出るため、増え続けています。日本では木質ペレットは重量ベースで取引されますが、軽いのかさばるため輸送単価が高くなります。生産地と消費地が近いとコスト的に有利でもあるので、三菱製紙の八戸工場がある東北地方はターゲットのひとつです。首都圏は人口が多いので東京、山梨、神奈川などが供給源として見込めるだろうと、同様のことが檜原村を含んだ首都圏近郊の間伐材を利用してできないかと検討しています。

ペレットは加工費用がかかる分、現状では化石燃料と比較すると割高ですが、三菱製紙で原料とした木材の使えない部分を利用することでコストを下げられると考えています。



木質ペレット

※木質バイオマスとは…  
バイオマスとは生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、再生可能な生物由来の有機性資源で化石燃料を除いたものです。中でも木材からなるバイオマスを木質バイオマスと呼びます。木材を燃やすとCO<sub>2</sub>が発生しますが、このCO<sub>2</sub>は植林した樹木が再び吸収することになり、木材のエネルギー利用は大気中のCO<sub>2</sub>に影響を与えないカーボンニュートラルな特性があります。化石燃料の代わりに木材を使えばCO<sub>2</sub>排出が抑制され、地球温暖化防止に貢献できます。

# クロズド ループ サイクル

私たちの  
活動

## 重要機密文書の循環再生

### セキュリティを高めつつ 機密文書のリサイクルを促進

2013年版CSRレポートでは、KDDI（株）さんと取り組んだ「循環再生紙の活用」についてご紹介しましたが、現在は別の切り口のものも進めています。機密性の高い文書は紙を完全に溶解してしまいティッシュやトイレットペーパーなどの衛生紙として再生するのが主流ですが、セキュリティ面で課題があります。溶解処理工場に運ぶための専用箱に移し替える際の漏洩、輸送途上での漏洩、溶解処理工場での処理工程での漏洩の可能性等です。これらを解決するため、当社ではある企業とのコラボレーションで機密性を保ちつつ再生することに取り組んでいます。

①お客様の目の前で段ボール箱を無開梱のまま破碎・溶解するので、外部には情報が一切漏れない。

②今ある段ボール箱のまま処理できるので機密文書を移し替える必要がない。

③お客様まで出向いて破碎・溶解するので、お客様の出張の時間、費用が節約できる。

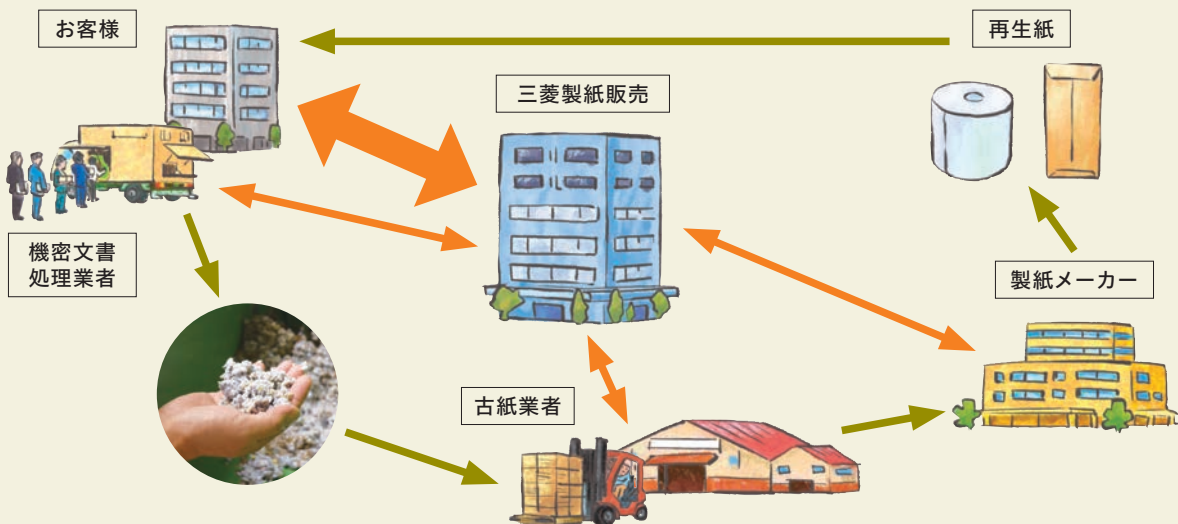
④シュレッダーせず粉砕溶解するので古紙原料としてリサイクルできる。

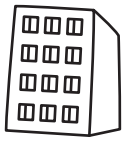
この4つの利点により今までの循環再生に加えて、機密性の高い文書の取り扱いも可能になっていきます。当社はおお客様のニーズにお応えし機密文書処理を行い、処理業者、古紙業者、製紙メーカーと協働して、リサイクルした紙をお客様に戻すという役割を担います。循環型社会のための資源の有効利用と情報セキュリティの確保を同時に実現できる取り組みを、広くお客様にお知らせし利用していただくことも、当社の使命だと考えています。



車内で機密文書の溶解処理ができる専用車。

### 機密文書の循環再生の図





# 支店活動紹介

名古屋支店

## 循環型社会を目指した 山梨県の取り組みと協働

山梨県は2003年4月に公有林としては全国に先駆けてFSC森林管理認証を取得されました。山梨県は県土の78%を森林が占める森林県ですが、県有林は、このうち46%約15万8000ヘクタール、FSC認証面積は14万3000ヘクタールに達しており、県有林から産出された木材はFSC認証材としても販売されています。山梨県のFSC認証材を利用した製品を拡大するため、「やまなし森の紙推進協議会」より当社に対してFSC認証チップを利用したコピー用紙を作れないかとの打診があり、三菱製紙と交渉の結果、「やまなし森の紙」が誕生いたしました。

こうして始まった山梨県有林の

FSC認証材を原料とする

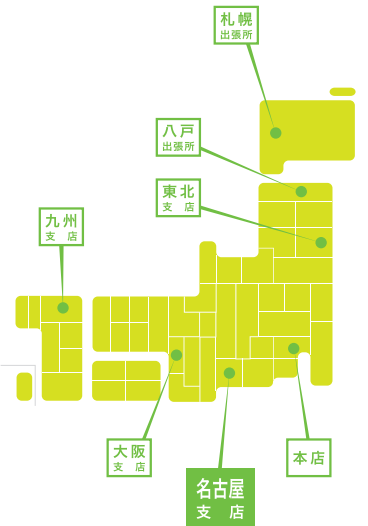


名古屋支店 小崎 明弘

FSC認証コピー用紙は、主に山梨県庁、県関連の学校・機関をはじめ一般企業や団体、連合関係など山梨県内外で消費されています。山梨県の森林資源を有効に使い、全国へ循環型社会の定着化を目指した取り組みです。「やまなし森の紙推進協議会」の活動としては、FSC認証材のチップや間伐材の利用促進、製品の普及活動、FSC森林認証制度の普及啓発、緑化推進機構への募金、森林の再生、有効活用のための活動等になります。

新たに、県有林内で間伐を実施した約2900ヘクタールのカラマツ、ヒノキなどの人工林を対象

として山梨県で創出したカーボン・オフセット・クレジットを活用して、コピー用紙にクレジットを付けてみました。カーボン・オフセット認証ラベル付、FSC森林認証紙、グリーン購入法適合、みどりの募金に寄付(シール付)、J-V E R (山梨県県有林)が揃った、環境にやさしい国内で初めてのコピー用紙へと進化しています。「やまなしの森の紙」はシリーズとして印刷用紙も加わりました。県の広報誌や商工会議所・会誌・パンフレット関係などに使用されています。環境面、社会面、経済面において先進的で効果的な山梨県の取り組みをお手伝いできることは当社にとっても大きな喜びです。



六本木ヒルズ開催「やまなしサポーターズ倶楽部交流会」にて



山梨県のFSC認証材を利用したコピー用紙「やまなし森の紙」



認証番号: C02-0071  
 やまなし森の紙推進協議会  
 H P <http://jcs.go.jp/>  
 認証期間: 平成26年4月1日  
 ~平成27年3月31日

「やまなし森の紙」に付いているカーボン・オフセットラベル

FSC®C011851

私たちの活動

## 将来に希望を持つための 商材とサービスを提供

**Safety & Health事業で  
「安心・安全」「健康」を  
お届けしたい**

東日本大震災を契機にして防災意識が高まり、防災関連用品が注目されました。特に東京都では「東京都帰宅困難者対策条例」が2013年4月に施行され、事業者に対し都からの指導が始まりました。これにより急速に防災関連用品の備蓄が始まりました。国の指導も従業員を「帰す」から「待機」へと大転換しました。また、災害時や緊急時の地域への対応が企業のCSRとして認識されるようになりました。このような中、安心・安全や健康をキーワードにしているSafety & Health事業を積極的に展開することは当社CSR活動のひとつであり、同時に当社の企業価値を高めるものであると考えています。

現在はAEDやレスキューボードなどの救命器具、携帯トイレ、LEDソーラーランタンなどの防災用品や空間除菌剤などの健康関連用品などを展開していますが、さらに防災・

備蓄、安全、衛生で企業の事業継続に貢献できる商材、サービスをトータルでご提供することを目指しています。

Safety & Health事業は総務部や経理部など管理部署を含む全部署からプロジェクトメンバーを選出するという全社的な活動になっています。そのため、通常では珍しい、管理部署の関係先から受注という案件も発生しています。紙の営業というのはお客様の購買部門や資材調達部門の方が相手ですが、本事業では総務や企画部門のご担当者とお話するため、お会いできる人・窓口が広がっています。紙のご提案を続けても結果が出なかった企業に、携帯トイレをご提案したら社員用に1万個注文いただき、つながりができたという事例も出ています。紙の営業マンは管理部門の方とはお会いする機会がないので、こういう形でニーズにお応えできるのは大変貴重であり、本事業の喜ばしい側面だと捉えています。今後も新たな出会い、新たなニーズを探求し、安心・安全で健康的な社会を築く一助になりたいと考えています。



Safety&Health事業のプロジェクト会議の風景。全部署からメンバーが集まり、月に一度新しい商材について会議を行っています。地方支店・出張所のメンバーはテレビ会議にて参加し、地方からあがる生の声も反映しています。



## AED (自動体外式除細動器)

AEDはその有効性が徐々に理解されてきましたが、設置台数はまだ不足しています。実際に目の前で人が倒れて心肺停止の可能性があっても、自信を持ってAEDを使える人が少ないのが現実です。成功率（一ヶ月以内に退院できる率）は1分ごとに約7%から10%低下するといわれています。救急車が到着する前に、近くにいる一般市民がAEDを使って除細動をできるだけ早く行うことが重要です。当社では、心肺蘇生講習のできる営業員を育成しており、独自で講習会も行っています。



## 携帯トイレ

備蓄を目的とした商品に携帯トイレがあります。長期10年保存が可能で、抗菌性凝固剤をふりかけるだけで悪臭や感染症を防ぐことができます。自治体にもよりますが、処理後は可燃ごみとして処理できるなど優れた特長があります。事務所や家庭の備蓄として好評ですが、トラックドライバー向けに物流会社様にも多く導入していただいています。



Safety & Health  
事業で取り扱いを  
始めた製品です



営業開発部  
田中 義和

自信を持って  
販売に力を入れて  
います!



営業開発部  
青木 伸一

# 「製品の魅力を紹介!」

## LED

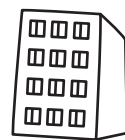
LEDソーラーランタンはキャンプなどアウトドア・レジャーでも便利ですが、防災備蓄に最適な商品です。超軽量で小さくたたんで省スペースで備蓄できます。生活防水設計で濡れても使えますし、太陽光で充電し繰り返し使用できます。



## 空間除菌剤

空間除菌剤は二酸化塩素剤によって空間の細菌・ウイルス・悪臭を除菌消臭する製品です。1~4畳用から40畳までの大空間に対応する4タイプがあります（ご利用環境により、成分の広がりには異なります）。使用方法も簡単でノーメンテナンスで60日効果が続きます。この製品のパッケージは当社で製作しています。





# 支店活動紹介

## 札幌出張所

### 「もしもの時」に備えて、 備蓄品を提案

北海道は比較的自然災害が少ないため他の都道府県よりも防災意識が低く、企業の備蓄は最低限もしくは全くないという企業も珍しくありません。災害時の帰宅困難者対策のためにもお客様に「もしもの時」に備えるご提案をしています。札幌出張所が入居する福山南三条ビルでは防災訓練や普通救命講習会が毎年開催されています。当ビルを所有する(株)福山倉庫さんは高い防災意識に加え、担当者が常駐しテナントの意見を直接聞くなどキメ細かいテナント管理をされています。そこで備蓄品として携帯トイレをご提案しましたが当初、数は少なくて良いとお考えでした。しかし必要推定数を

ご説明するうちに、ご提案の倍は必要となりました。さらに

他の防災・備蓄品もご要望いただき、結果的に携帯トイレ400個、ソーラー充電LEDランタン30個、紙製レスキューボード2台、土のう20袋を納入しました。当社にお声掛けいただければトータルでご希望にお応えできることをご理解いただけたと思います。今回の備蓄によって当ビルで働く私自身にとっても安心感が増したのほ言うまでもありません。今後も、お客様と当社が共にメリットを得られる取り組みをより進めていきたいと考えています。



札幌出張所  
大巻 和則



## 九州支店

### 多様なグッズを紹介し ステークホルダーの声を聞く

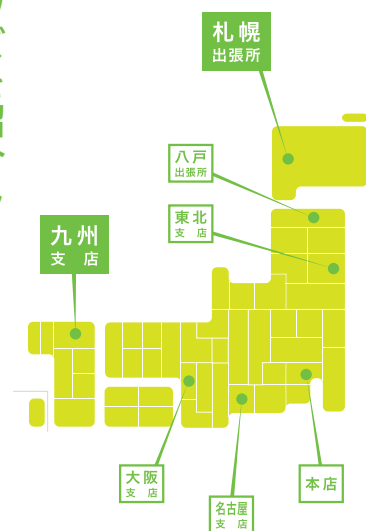
三菱倉庫(株)さんは、物流は経済の基盤であり自然災害発生時その機能が求められる公共性の高い社会インフラであることから、自然災害リスク低減を推進されています。三菱倉庫・福岡支店さんには当社九州地区の在庫管理でお世話になっていますが、当社で扱っている救命防災用品を提案したところ、AEDとポータブル発電機をご採用いただきました。今回ご採用のポータブル発電機はカセットボンベ燃料を使用するもので、始動がスムーズ、環境に優しい、取り扱いがクリーン、軽量・コンパクトと様々な特長があり、停電時に素早く使用できることが決め手でした。防災関連品やノベルティグッズ、FSC紹介パンフレットなど

を、今年も(株)レイメイ藤井

さんのオータムフェアに出品させていただきました。このフェアはレイメイ藤井さんの事業のひとつとして、知的生産をサポートするツールのオフィス用品やパーソナル文具の提案・販売促進を行うもので、九州各地、沖縄で開催されています。当社もパートナーとして様々な商材を展示、紹介することで直接ステークホルダーの皆さまのお声を聞ける良い機会となっています。



九州支店  
浅香 義和



# その他活動紹介

## 自転車通勤 チャレンジプロジェクト

当社八戸出張所勤務の従業員は、洋紙や様々な商品販売、ソリューション提案を行う他の事業所とは違い、製紙用薬品の製造、販売をしています。三菱製紙(株)・八戸工場内に事業所があり、全員がマイカー通勤していますが、社内で環境事業プロジェクトが始まり、自分たちにもできることがないかと考えていました。そこで思いついたのが「自転車通勤」。マイカー通勤をやめ、自転車を利用することによってCO<sub>2</sub>削減に貢献したい、という想いが強くなりました。

もともと所員の何名かは自転車が大好きで、休日はツーリングを楽しんでいたこともあり、積極的な検討が始まりました。自宅から出張所までの距離を測り、マイカーを使うことで排出されるCO<sub>2</sub>の量を計算した結果、「自転車通勤に切り替えることで削減できる」と意欲も高まりました。冬が長いため1年中自転車を利用することが難しく、また、自転車の定期的な整備、任意保険加入等、安全を担保するための制約も多いため、慎重な検討が必要ですが、来春からスタートすべく取り組んでいます。



## 子どもたちとともに 次の世代の子どもたち のために

私たちが環境事業に取り組むなかで、未来を担う子どもたちと一緒に何かできることはないだろうか。試行錯誤の日々が続いています。そんな状況のなか、夏休みを機に身の回りのことを少しだけ一緒に考えてみよう、子どもたちを対象とした「環境セミナー」を実施しました。

集まってくれたのは当社従業員の小学5年生から中学3年生までのお子さん4名。学校でも環境に関する勉強があるらしく、CO<sub>2</sub>削減についても知識はある様子。しかし、今まで聞いた話はスケールが大きすぎて実感できずにいたようです。そこで今回は、夏休みの旅行や帰省で楽しい思い出を作った子どもたちが、車や電車で移動することで排出されたCO<sub>2</sub>の量を自分たちで計算し、その量に見合う分を削減するために日々の生活でどんなことができるかを一緒に考えました。「冷蔵庫のドアを開ける時間を短くする」「お風呂は冷めないうちに間隔を開けずに入る」…。自分たちにもできることがあると気付き、パッと顔色が明るくなりました。



## イラストレーター 茶畑和也さん作 願いが込められた ハートのカレンダー 取扱開始!

名古屋在住のイラストレーター、茶畑和也さん。2011年3月11日の東日本大震災、そして福島第一原発の事故があった後の3月28日から、イラストレーターとして自分ができることを…と思い、毎日ひとつずつハートの絵を描き続け、フェイスブックやツイッターを通して発信し続けていらっしゃいます。

2013年12月21日にはハートが1000個になりました。震災がきっかけでハートの絵が始まりましたが、すべての人、そしてすべての生きものが、この地球上で調和してしあわせに生きていけることを願って、今日もひとつ、ハートが生まれています。

その茶畑さんが描いたハートが12個選ばれたカレンダーが制作されています。名古屋にある印刷会社の(株)マルワさんのご紹介により当社は今年から、そのカレンダーを販売させていただきましたことになりました。生物多様性の保全を旨として環境事業に取り組んでいる当社。茶畑さん、(株)マルワさんとお話させていただきながら、何か一緒にさせていただきますだけないかと考えています。



## エコシステムアカデミー への参加 紙抄き体験

三菱製紙(株)が運営する「エコシステムアカデミー」。今年には福島県白河で開催された森林体験や東京都内の小学校で行われた紙抄き体験に当社従業員も参加しました。8月には世田谷ものづくり学校で開催された「IID kids WORKSHOP in summer2014(楽しい紙抄き体験)」もつと知らう、森と紙の循環」に当社従業員で同アカデミーのインストラクター補の渡瀬が参加。真夏の猛暑日でしたが集まった元気な子どもたちと一緒に、紙抄き体験を行いました。

大きな洗面器(たらい)のなかに用意された紙の原料(パルプ)を手抄き網ですくい、水分を取り除いたあと、アイロンで乾燥させると柔らかな質感のハガキができます。

自宅に持ち帰って、夏休みの思い出を描いてくれているでしょうか。今後も当社はエコシステムアカデミーの取り組みに積極的に参加するとともに、環境事業プロジェクトとも連携して、次の世代の子どもたちのためにできることを考えていきます。



# 三菱製紙販売株式会社

## 会社情報

【本店所在地】 東京都中央区京橋二丁目6番4号  
【創業】 1912年(明治45年)2月  
【設立】 1956年(昭和31年)8月  
【資本金】 6億円  
【事業内容】 紙類・パルプ及び紙加工品の販売、  
製紙用工業薬品の製造並びに販売  
【代表者】 取締役社長 中瀬一夫  
【売上高】 117,800百万円(2014年3月期)  
【従業員数】 282名(2014年3月31日現在)

## 事業所一覧

	住 所	電話番号	FAX番号
本 店	東京都中央区京橋二丁目6番4号	03-3566-2300	03-3566-2339
大阪支店	大阪市中央区久太郎町一丁目3番9号	06-6271-2271	06-6261-9290
名古屋支店	名古屋市中村区名駅三丁目16番22号 名古屋タイヤビル	052-563-7561	052-563-6857
東北支店	仙台市宮城野区宮城野一丁目11番1号 ダイヤミックビル	022-295-7710	022-295-7730
九州支店	福岡市中央区天神一丁目15番6号 綾杉ビル	092-771-1531	092-714-7197
八戸出張所	八戸市大字河原木字北沼	0178-29-2551	0178-29-2751
札幌出張所	札幌市中央区南三条西十丁目1001番5 福山南三条ビル	011-271-3555	011-271-3557

お問い合わせ先 東京都中央区京橋二丁目6番4号 TEL: 03-3566-2300 FAX: 03-3566-2339 お問い合わせ先: 総務部CSR推進チーム

Webサイトにてより詳細な内容を掲載しています。

「CSR・環境」のページをご覧ください。

CSRレポートWeb版

<http://www.mitsubishi-kamihan.co.jp/>

右記QRコードからもアクセスできます。▶



がんばろう東北!!  
がんばるぞ八戸!!



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。